

学校の教育目標:「自らの在り方や生き方を探求し(自主), 他者と協働しながら(信愛), 課題に粘り強く取り組む(努力)生徒の育成」

育成を目指す資質・能力:「自己実現力」・「自己調整力」

4段階評価
(A:十分達成 B:おおむね達成 C:課題がある D:大いに課題がある)

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が目指す 資質・能力との関連		取 実 組 施 指 率 の	取組指標に対する 取組状況の確認	検証・改善【 1 】回目				達成指標・取組指標の 妥当性を検証		自己評価		学校関係者評価日 (9)月(1)日 学校関係者 (評価者)意見	評価	改善方策																										
						知識 及び 技能	力 思考 表現 力 判断 等			達成指標に対する 達成状況の確認	達成指標・取組指標の 妥当性を検証	取組別	全体																																	
目的意識をもつて課題に粘り強く取り組み、目標の達成に向けて努力する生徒の育成	研究主任	(A)下記の学力に関する調査及びテストにおいて目標値を達成する。 【短期】 ①定期テスト等の知識・技能に関する問題で全教科平均正答率を80%以上にする。 ②各教科の単元テストの記述式問題での全教科平均無回答率を10%未満にする。 【長期】 ③各種学力調査(全国、大分県、佐伯市)における全教科の正答率を市平均値以上にする。 ④各種学力調査(全国、大分県、佐伯市)における記述式問題の正答率を市平均値以上にする。 (B)以下のアンケート調査で肯定的回答を80%以上にする。 【生徒調査】 ①目標をもって計画的に行動できた。 【保護者調査】 ②子どもは目標をもって計画的に行動できている。 【教職員調査】 ③生徒は目標をもって計画的に行動することができている。 【生徒調査(授業評価)】 ④自分から進んで学習や課題、練習に取り組もうという気持ちになった。 ⑤授業の内容に興味をもち、より専門的な内容や社会との関わりなどを「もっと知りたい」と思うことがあった。 ⑥自分の考えを理由とともに説明する場面があった。 ⑦発言したり、課題の解決方法の選択したりする場面があり、自分の意見や判断を大切にできた。	学校	(1)授業改善・授業力の向上	①授業者は、「南中スタイル」に基づく授業を毎時間実践する。	○	○	○	88%	おおむね順調に実施されている。	◇達成指標(A) ①平均74%(達成率93%) <table><tr><td>全教科平均</td><td>5教科平均</td><td>実技系平均</td></tr><tr><td>74%</td><td>67%</td><td>81%</td></tr></table> ②平均7%(達成率135%) <table><tr><td>全教科平均</td><td>5教科平均</td><td>実技系平均</td></tr><tr><td>7%</td><td>13%</td><td>0%</td></tr></table>	全教科平均	5教科平均	実技系平均	74%	67%	81%	全教科平均	5教科平均	実技系平均	7%	13%	0%	B	◇達成指標(A) ①実技教科ではいずれの教科も正答率80%以上を達成している状況であるが、国社数理英の5教科を見ると未達成の状況であるため、今後は5教科にフォーカスして取り組む必要がある。指標を5教科にフォーカスして継続する。 ②全体として達成指標(10%未満)を達成している状況であるが、国社数理英の5教科平均で見ると13%で未達成の状況となる。今後は5教科にフォーカスして取り組む必要がある。指標を5教科にフォーカスして継続する。	B	○達成状況は結果として表れています。ただ、学校の取組を保護者がどれだけ認知しているのかが気になります。 ○複数の情報を、つなぎ合わせていく力が不足している状況を踏まえ、結論と根拠をもとに説明できるように工夫している授業が多く見受けられました。 ○生活の支援は家庭、学習支援は学校に任せている家庭が多いのではないかと思う。 ○様々なことを考えていただいて、保護者としては感謝しかありません。生徒のコミュニケーションが高まればよいと思います。やはり、親の姿勢次第ですね。 ○家庭・地域との連携が若干弱い気がします。あれもこれも要求すると評価も難しくなります。「これだけは共に取り組もう」という視点で観点を絞るのはどうでしょうか。	A	◇達成指標(A) ・①実技教科はすべての教科で80%を達成しているため、次回の目標値を「 国社数理英の5教科平均で80%以上 」と修正する。 ・②実技教科はすべての教科で0%を達成しているため、次回の目標値を「 国社数理英の5教科平均で10%未満 」と修正する。																	
					全教科平均	5教科平均	実技系平均																																							
					74%	67%	81%																																							
					全教科平均	5教科平均	実技系平均																																							
			7%	13%	0%																																									
			②授業者は、単元計画に基づいた「情報の取り出し→思考・判断→表現」を意識した授業に取り組む。	○	○	○	81%	おおむね実施されているが、他の項目に比べ低い。	◇達成指標(B) ①②③の「計画的な行動」については概ね良好な状況であるが、生徒・保護者・教職員の間で若干の差が見られる。特に、保護者の数値が相対的に低めである。指標は妥当であるため、継続する。	○達成指標(B) ・①②③の目標値について以下のように設定する。 ①[生徒調査]現状の80%から 85%以上 に上方修正する。 ②[保護者調査]未達成のため現状の80%を継続する。 ③[教職員調査]現状の80%から 85%以上 に上方修正する。 ・④⑤⑥⑦の目標値について目標値80%から 一律85%以上 に上方修正する。																																				
			③授業者は、単元計画に基づいた「必然性をもったペア・グループ活動」を行う。	○	○	○	88%	おおむね実施されている。	指標①③については、現状に合わせて若干の上方修正を行う。保護者については指標を継続する。	生徒調査の授業評価に関する指標④⑤⑥⑦については、概ね良好ではあるが、まだ改善できる部分はありと考えられる。指標は妥当であるため、上方修正して継続する。	◆取組指標 妥当な指標であるため継続する。ただし、⑥、⑩、⑪については、実施率を上げるための工夫をする。	◆取組指標 ・⑥については、各種行事等において「未来をえがくキャリアノート」と活用した目標設定と振り返りを継続して行うようにする。 ・⑩⑪については、1学期、連絡アプリ等で保護者に学習計画書に励ましのコメントを記すように促す連絡をした。今後も継続的に行う。計画表については、担任・生徒・保護者にとってより実用的なものを考えていく必要がある。(見やすい・書きやすい・チェックしやすい)																																		
			④研究主任は、生徒による授業評価アンケートを学期に1回以上実施し、職員と共有する。	○	○	○	100%		【保護者調査】全校平均64%(達成率80%) <table><tr><td>②</td><td>1学年</td><td>2学年</td><td>3学年</td><td>全校</td></tr><tr><td></td><td>66%</td><td>67%</td><td>60%</td><td>64%</td></tr></table> 【教職員調査】③平均95%(達成率118%) 【生徒調査(授業評価)】 <table><tr><td></td><td>1学年</td><td>2学年</td><td>3学年</td><td>全校</td></tr><tr><td>④</td><td>80%</td><td>83%</td><td>86%</td><td>83%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>80%</td><td>79%</td><td>87%</td><td>83%</td></tr><tr><td>⑥</td><td>84%</td><td>84%</td><td>92%</td><td>87%</td></tr><tr><td>⑦</td><td>86%</td><td>86%</td><td>93%</td><td>89%</td></tr></table> ④全校平均83%(達成率104%) ⑤全校平均83%(達成率104%) ⑥全校平均87%(達成率109%) ⑦全校平均93%(達成率111%)	②	1学年	2学年	3学年	全校		66%	67%	60%	64%		1学年	2学年	3学年	全校	④	80%	83%	86%	83%	⑤	80%	79%	87%	83%	⑥	84%	84%	92%	87%	⑦	86%	86%	93%	89%	A	◆取組指標 妥当な指標であるため継続する。ただし、⑥、⑩、⑪については、実施率を上げるための工夫をする。
			②	1学年	2学年	3学年	全校																																							
				66%	67%	60%	64%																																							
	1学年	2学年	3学年	全校																																										
④	80%	83%	86%	83%																																										
⑤	80%	79%	87%	83%																																										
⑥	84%	84%	92%	87%																																										
⑦	86%	86%	93%	89%																																										
家庭	(2)「生徒指導の3機能」を重視した取組	⑤授業者は、毎時間の授業で「生徒指導の3機能」を取り入れた展開を行う。	○	○	○	94%	おおむね良好に実施されている。	A	◆取組指標 妥当な指標であるため継続する。ただし、⑥、⑩、⑪については、実施率を上げるための工夫をする。																																					
		⑥担任は、毎学期はじめと終わり等、計画的に「未来をえがくキャリアノート」を活用した目標設定や振り返りを行う。	○	○	○	70%	取り組み実施率が70%と低く、「未来を描くキャリアノート」の活用が十分でない。																																							
	(3)目標設定と振り返りの充実	⑦各担当者は、各種行事等において、校訓と連動した目的のもとで、取組を進め、生徒が振り返りをする機会を設定する。				○	100%			A																																				
		⑧授業者は、定期テスト、単元テスト等に「記述式問題」を設定する。	○			100%	A																																							
		⑨国語科は、南中タイムにおいて読書活動とコラム学習に取り組む、学期に1回、全教職員で効果の検証を行う。	○	○		100%																																								
		⑩保護者は、学期に1回、定期テスト計画表を確認し、励ましのコメントをする。			○	76%					実施率は76%であり、家庭との連携が十分でない。目的が共有されていない可能性がある。																																			
地域	(5)子どもの目標と振り返りの確認	⑪保護者は、学期に1回以上、将来の目標や進路について話をし、認め、励ます言葉かけを行う。				○		76%	実施率は76%であり、家庭との連携が十分でない。目的が共有されていない可能性がある。																																					
		⑫学校運営協議会の地域メンバーは、学期に1回以上、学校の教育活動、学力向上対策等について意見及び助言・支援を行う。	○	○		100%	A																																							
	(6)生徒の学力・表現力向上に向けた助言・支援	⑬地域住民は、登下校時や生徒との交流場面において、あいさつや言葉かけを積極的に行う。			○	100%		A																																						
		⑭保護者は、月に2回以上、学校通信等とともに、学校での様子や活動・活躍内容を子どもと共有する時間をもつ。			○	78%			実施率は78%であり、学校生活が話題になっていない家庭が一定数存在する。																																					
地	(11)地域の人的・物的資源を活用した授業実践の支援	⑮地域協育コーディネータは、地域と学校を結ぶ情報の提供や人材活用時の連絡、およびCSでの企画・運営等に協力する。			○	100%		A																																						
		⑯地域の方々は、学校と連携して取組を行う際、協力、支援を行う。			○	100%	A																																							
		⑰担任は、月に2回以上、学校通信等とともに、学校での様子や活動・活躍内容を子どもと共有する時間をもつ。			○	78%			実施率は78%であり、学校生活が話題になっていない家庭が一定数存在する。																																					
		⑱保護者は、月に1回以上、家庭内で地域の行事等に関わる話を行う。			○	36%			実施率が36%であり、地域とのつながりの弱さがみられる。																																					

